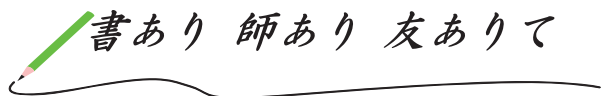


明石市立大蔵中学校だより「2024年11月28日号」



## 「2024年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

校長 赤堀 幸夫

令和6年4月18日(木)に、中学3年生を対象とした「全国学力・学習状況調査」が実施されました。個人の結果はすでにお返ししていますが、本校全体の分析について、以下のとおりお知らせいたします。なお、本調査における、教科に関する調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面であることから、明石市では、学校別の平均正答率は公表せず、文章表記にすることとしておりますのでご承知ください。

### 1 実施生徒数

調査対象学年	本校	明石市	兵庫県(公立)	全国(公立)
中学校第3学年	173	2,278	38,660	875,952

### 2 調査内容

#### (1)教科に関する調査

知識・技能、知識・技能を活用する力

課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等

○国語(50分)15問 ○数学(50分)16問

※理科、英語科については、質問調査からの分析となります。

#### (2)生活習慣や学習習慣等に関する質問調査 (20分程度・65項目)

### 3 調査結果

教科	平均正答率(%)			
	本校	明石市	兵庫県	全国
国語(R5)	市平均より少し高い	71	69	69.8
国語(R6)	市平均より少し高い	59	58	58.1
数学(R5)	市平均より少し低い	54	52	51.0
数学(R6)	市平均より少し高い	56	55	52.5

### 4 教科に関する調査分析

※○強み ●課題 ◎分析を記載しています。

#### (1)国語科

<強み>

○正答率が最も高くなったのは、「書くこと」領域で、文章の読み取りに慣れていることや朝読書などで物語を読んでいる生徒が多く見られることから、物語の状況設定や作者の意図などを推し量り、正しく捉える力がついていると考えられます。

<課題>

●情報の扱い方に関する事項では、解答の選択肢に似たような表現が並んだ場合、それぞれ明確な違いが認識できなかったことから、正答率が低くなりました。話の内容をしっかりと捉えることができる思考力を身に付けることが課題として捉えることができます。

◎正しく文章を読み取る力、読み取ったり考えたりしたことを表現する力は、一朝一夕で身につくものではありません。要約や要旨の比較など、今後も様々な取組をととして、「言葉の力」を養うことを心がけていきたいと考えています。

#### (2)数学科

<強み>

○「数と式」において、正しい立式ができ、正の数と負の数の加法の計算が正確に理解できている生徒が多くいました。

<課題>

●「関数」に関しては、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を式やグラフを用いて数学的に説明することができる思考力を見につける必要があります。

●「図形」に関しては、三角形の性質などについて、理解した知識を応用・活用する力を身につける必要があると考えます。

◎「数学が大切だと思う」と答えた生徒は約90%いますが、「数学の勉強が好き」と答えた生徒は全国・県平均より少し低い結果となりました。解けた際の喜びを感じることで、意欲的に取り組むことができる生徒も多いため、簡単な問題であっても解けた際は積極的に褒める指導が大切であると考えています。

#### (3)理科

◎「理科の勉強が好きか」という質問に対し、「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒は全国平均より6.0ポイント低い結果となりました。日頃から生徒の興味関心を惹くことができる導入の在り方等を考えていく必要があります。

◎自然現象をぶつ切りに考えてしまうと、暗記教科と捉えがちになることから、つながりを意識した授業展開が必要であると考えています。

#### (4)英語科

◎「スピーチやプレゼンテーションなどまとめた内容を発表する活動が行われていたと思うか」という質問では、「当てはまる」と答えた生徒が県平均より20ポイント以上高い数値でした。原稿づくりの段階から、発音や発表態度をペアで評価し合い、時間をかけて取り組んだ成果が表れたと考えています。今後もまとめた内容を発表する活動を継続して取り組みます。

## 5 生徒質問に関する調査分析

### (1)生活面

<強み>

- 「朝食を毎日食べている」割合が全国・県平均と比べても高く、基本的な生活習慣が身に付いている生徒は多いです。今後も引き続き、学校と保護者の方々との連携を図り、お子様の見守りを継続していきたいと考えます。

<課題>

- 普段(月曜日から金曜日)、テレビゲーム、SNS、動画視聴をする時間は、全国・県平均と比べて比較的少ないですが、3時間以上すると答えた生徒がテレビゲームは2割程度、SNSや動画視聴は3割程度います。

また、携帯電話・スマートフォンやコンピューターの使い方について、「家の人との約束を守っていないや、約束がない」と回答した生徒もいますので、これをきっかけに、各ご家庭でテレビゲーム、携帯電話・スマートフォンやコンピューターの使い方について話をする機会を設定してください。

### (2)学習面

<強み>

- 「1・2年生時に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」という質問に対して、「ほぼ毎日使用している」と答えた生徒が全国・県平均と比較して、非常に高い数値を示しました。
- 「ICT機器を活用することによって、友だちと考えを共有したり、比べたりしやすくなっていますか」という質問に対して、「とてもそう思う、そう思う」と答えた生徒が全国・県平均に比べ、高い数値を示しました。

<課題>

- 「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」という質問に対し、「できている、どちらかといえばできている」と回答した生徒は、全国・県平均より低かったです。

◎GIGAスクール構想が実現され、授業の中でタブレットを使用する機会が増えており、ICT機器を使うことで、多くの考えを瞬時に共有したり比べたりすることが可能になっています。

◎しかし、「自分のペースで理解しながら学習を進めることができているか、楽しみながら学習を進めることができているか、友だちと協力しながら学習を進めることができているか」という質問に対して、「とてもそう思う」と答えた生徒は、全国・県平均に比べ、若干低い数値でした。

◎今後の方針として、ICTの機能を使うだけでなく、生徒が自主的に学べる方法や、協働的に学べる方法を研究し、生徒がさらに授業が楽しい、授業が分かると思えるように取り組む必要があります。

◎個に応じた指導が求められており、ICT機器の活用も含め、生徒が自主的に学習を進めることができるよう、それぞれの生徒が自分にふさわしい学習方法を模索し、見つけ出すことができる態度を育てていく必要があります。

今回の調査結果は、ご家庭において基本的な生活習慣や学習習慣をしっかりと定着させていただいていることが、大きく寄与していると感じています。毎日の規則正しい生活や、学習の時間を設けることは、学びの土台を築くうえで非常に重要です。

学校としましても、お子様の成長を共に見守り、支えていくことができるよう、今回の調査結果を今後の教育活動に活かしてまいります。

この結果についてご質問等がございましたら、ご遠慮なく学校までご連絡ください。今後も、本校の教育活動へのご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。